

安全・安心な道路を守り、次世代に誇れる首都高を築く

あなたが進む。
首都高が進む。

1962年に最初の区間(京橋～芝浦間)が開通し、以後も延伸を続けてきた首都高速道路(以下、首都高)。2005年の民営化によって首都高速道路株式会社が設立され、昨年10月に民営化20周年を迎えました。この先も豊かに発展し続ける首都圏を支えることを社会的使命とする首都高の取り組みや展望について、首都高速道路株式会社 執行役員 石戸谷淳氏に本紙論説室論説主幹 豊田洋一が聞きました。(以下、敬称略)



首都圏の移動・物流・経済、防災活動を支える首都高

豊田 首都高は開通から60年以上、人の移動や物流に欠かせない「首都圏の大動脈」といえる存在です。私も記者時代、ほぼ毎日、現場取材が終わると首都高を利用して帰ったので、思い出深い道路でもあります。改めて首都高の規模や役割についてお聞かせください。

石戸谷 首都高は、首都圏のひと・まち・くらしを安全・円滑なネットワークで結び、豊かで快適な社会の創造に貢献することを使命としております。現在では総延長327.2kmに及ぶネットワークを構築し、1日あたり100万台以上のお客さまにご利用いただいています。

役割としては、首都高は移動の手段にとどまらず、首都圏の物流、経済活動、そして救急医療や災害があった際、救援活動を支える「生命線」としての役割も担っています。特に都心環状線や中央環状線などの環状道路は都心部の交通分散を図り、渋滞緩和や環境改善に寄与してまいりました。この巨大なネットワークを24時間365日、安全に機能させるため、私たちは道路構造物だけではなく様々な設備を設置し、それらを統合する管制システムを構築しています。例えば、全線に配置された車両感知器や監視カメラから得られる膨大な交通データを交通管制室のシステムでリアルタイムに解析し、渋滞や事故などの道



首都高速道路株式会社 執行役員 石戸谷 淳氏

Profile いしとや じゅん / 1989年に前身である首都高速道路公団に採用。民営化の激動期を経たのち、技術部施設技術課長、保安・交通部施設担当部長、神奈川局副局長などを歴任し、世界的長大トンネルである山手トンネルの防災設備をはじめとする各施設の建設・管理を通じて都市高速道路の安全・安心を牽引。2025年より施設総括、情報システム総括、保安・交通部(施設関係)担当役員。



東京新聞論説室 論説主幹 豊田 洋一

Profile とよだ よういち / 東京新聞政治部で小泉政権時代の首相官邸キャップ、同デスク、ワシントン特派員などを経て、2009年に論説室論説委員。主に日本政治、外交、安全保障分野を担当し、17年に同副主幹、21年に同主幹。

高齢化が進む首都高の安全を確保するために

豊田 首都高は、東京都心部の交通渋滞緩和のために計画され、1964年の東京オリンピック開催にあわせて短期間で過密な場所に作られたことでも非常に特殊な高速道路だと思っています。首都高の特殊

性と、道路の高齢化の現状をお聞かせください。

石戸谷 首都高の最大の特徴は、地上での道路用地の確保が難しく、限られた空間を縫うように建設されている点です。川の上やビルの間、地下深く走行するトンネルといった構造物が約95%を占めています。多くの複雑な構造物に対し、管理空間が狭く生活空間に近接しており、維持管理には高度な技術と細やかな対応が求められます。現在、開通から50年以上経過した路線が全体の33%、2035年には約50%になり、構造物の高齢化が喫緊の課題です。過酷な交通荷重や環境要因により、コンクリートの剥離や鉄筋の腐食などの損傷が発生しています。これに対し、我々は日々の点検・補修に加え、「高速大師橋」や「羽田トンネル」のような大規模更新事業を推進し、道路を造り替えることで長期的な安全性を確保しております。

構造物の更新に加えて、設備の更新も重要です。例えば、橋梁のつなぎ目である伸縮装置や橋桁を支える支承の交換、管制システムの更新や照明設備のLED化など、構造物と一体となった設備の長寿命化・高性能化を進めています。私たちは「構造物の更新」と「設備の高度化」の両輪で取り組んでおります。

近年増加している水害や雪害対策も強化しております。ゲリラ豪雨に対しては、道路排水機能を維持するため、排水設備の清掃やポンプの定期的な点検を徹底してまいります。



高度な技術が必要とされる道路の補修工事

あらゆる災害を想定し 防災対策を高度化・強化

豊田 近年、日本各地で地震活動が活発化している印象を受けます。首都圏で大地震が起こった場合を想定し、首都高ではどのような災害対策に取り組まれていますか。

石戸谷 災害時にもお客さまの安全の確保と道路交通機能を維持するために、ハード・ソフト両面から災害対策を強化しています。地震対策としては、阪神・淡路大震災クラス地震にも耐えうる橋脚の耐震補強を完了させています。発災時には速やかにパトロールカーやドローンによる点検を実施し安全を確保します。また、緊急交通路の迅速な確保を最優先使命と捉え、段差が発生した場合、あらかじめ配備した段差修正材を用いて速やかに復旧させる体制を整えております。

首都圏の大動脈として 維持管理・更新の時代へ

豊田 首都高のこれまでの歩みとともに、今後の展望についてお聞かせください。

石戸谷 首都高は1962年の1号線京橋～芝浦間の開通以来、1964年の東京オリンピックを契機とした急速なネットワーク拡大を経て、2005年の民営化により、効率的かつ弾力的な経営へと舵を切りました。2025年に民営化から20年の節目を迎え、今、私たちは「建設の時代」から「維持管理・更新の時代」へと転換期を迎えています。我々の存在意義は、「安全・安心な道で、ひと・まち・くらしを未来につなぐ」ことにあります。民間企業としての自立性を保ちつつ、公共性の高い交通インフラを支えるという重責を果たすため、大規模更新や修繕、日々の維持

管理に努めてまいります。今後の展望として、100年先も豊かに進化し続ける首都圏を目指し、DX(デジタルトランスフォーメーション)やカーボンニュートラルの実現に挑戦してまいります。具体的には、ETC専用化の推進による料金所のキャッシュレス化、AIやデジタルツインを活用した維持管理の高度化(i-DREAMs等)、そして自動運転社会を見据えた次世代通信基盤(ローカル5G等)の整備などを進めてまいります。豊田 霞が関料金所はETC専用になっていきますね。



大規模修繕による舗装工事



積雪・凍結のおそれがある場合は、事前に凍結防止剤を散布

